

サケ放流事業について

皆様もご存知のことと思いますが、千葉県では、九十九里沿岸での新しい漁業資源の開発とサケ遡上南限への挑戦を目的として、昭和51年度から栗山川でのサケの放流試験を開始しました。

その後、夷隅川、加茂川への事業を拡大しましたが、この両川には回帰があまりなく、平成5年度からは栗山川だけになりました。

今までは、サケの回帰する南限は銚子までと思われてきましたが、稚魚放流により夷隅川まで回帰が可能であることがわかりました。

しかし、栗山川も含め数千尾程度の回帰しか望めず、漁業としては成り立たないことがわかり、県では平成10年度でサケの放流事業を終了しました。

横芝町と光町では、漁業資源としては成り立たなくても、サケの帰る南限の川、栗山川の自然と恵みを守るために、放流事業を続けることになり、私たち栗山川漁協も引き続き協力させていただくことになりました。

平成12年度からは、山武、海匝、香取郡など近隣の各小中高等学校のみなさんにも孵化から放流までを体験していただくことにより、「環境保護」の意識を高めていただき、飼育を通して「命の大切さ」を学んでいただくこと、「サケの里親事業」を実施することにしました。

平成16年度は、近隣の小中学校、高等学校の他、一般の方に呼びかけたところ42校という多くの学校から申し込みがありました。

利根川を除き唯一サケの帰る貴重な川、栗山川を汚染から守りながら4年前後で帰ってくるサケたちをきれいな川で迎えてあげようという気運がたかまってまいりました。

平成17年の秋には、横芝堰に魚道が整備されたことにより、30年目にしてようやく上流にサケが遡上できるようになり、芝山町、多古町、山田町、栗源町などで多くのサケが確認されています。また昨年1月には、河口付近でサケの受精卵が発見され、

栗山川でサケが受精していることもわかりました。

今後は、横芝光町のみのも事業ではなく栗山川上流の関係者がサケの放流事業に協力して頂き、事業を通して栗山川の環境保護とこれを生かした地域活性化を図っていただけるように希望しています。

栗山川上流のどこでもサケの産卵が見られる全国では類を見ない、南限の川づくりを是非、進めていただきたいと思います。

12月19日には、横芝町の大総地区に地下水が湧いている所があり、試験的に数万粒の受精卵をそこで育てて海に帰す実験を始めました。4年後には、そこで産卵するサケの姿を見ることができると思っています。

サケ放流事業の趣旨をご理解いただき、関係各位のご協力を強くお願い申し上げます。

平成17年12月22日

栗山川漁業協同組合

代表理事組合長 石井 文男

上堺小学校児童 横芝堰サケ採捕見学の様子 H17.12.19



光町白浜小学校児童 横芝堰サケ採捕見学の様子

横芝堰にて、捕獲したサケを見ながら、説明を受けている子どもたち



サケの孵化場にて、説明を受ける子どもたち



実際に持ってみて、サケの重さを実感

